

# 化学療法時に出現する吃逆の関連因子と対処法に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kawahara, Masami メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00062600">https://doi.org/10.24517/00062600</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 化学療法時に出現する吃逆の関連因子と対処法に関する研究

Research Project

All

## Project/Area Number

21928009

## Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists

## Allocation Type

Single-year Grants

## Research Field

薬学Ⅲ

## Research Institution

Kanazawa University

## Principal Investigator

原 昌美 Kanazawa University, 附属病院, 薬剤師

## Project Period (FY)

2009

## Project Status

Completed (Fiscal Year 2009)

## Budget Amount \*help

¥440,000 (Direct Cost: ¥440,000)

Fiscal Year 2009: ¥440,000 (Direct Cost: ¥440,000)

## Keywords

抗がん剤 / 吃逆 / 要因

## Research Abstract

研究目的: 抗がん剤によって引き起こされる吃逆は、重症度は持続期間で患者のQOLを低下させることから、吃逆を引き起こす抗がん剤の種類と発現頻度および要因を明らかにし、化学療法施行患者への予防に役立てることを目的とした。

研究方法: インタビューフォームから承認時および市販後の吃逆頻度が1%以上と報告されているオキサリプラチン、パクリタキセル、ピノレルピン、ドセタキセル、イリノテカン、ゲムシタピンの6薬剤を選択した。2008年4月から2009年9月の間に金沢大学附属病院で、上記6薬剤が投与された619名の入院患者を対象とし、性別、年齢、がん種、併用薬、吃逆の状態等を診療録から調査した。研究は、倫理委員会の許可を得て実施した。

研究成果: 調査薬剤すべてにおいて実際に報告されているよりも高頻度で吃逆が発現していた。吃逆の発現には、男性、ステロイドおよび5-HT3受容体拮抗薬の併用が関

連していた。また、プラチナ系抗がん剤を併用すると、単剤投与に比べて吃逆の頻度は上昇した。一方、ステロイド投与量、抗がん剤の投与量、がんの臨床病期は影響をおよぼさなかった。吃逆の治療には、クロルプロマジン、リスペリドンが効果的であることがわかった。本調査結果をもとに、吃逆発現の可能性が高い患者に対して説明文書を作成して注意を促すこととした。また、医師に対しては、吃逆の可能性が高い患者であることを知らせ、早めに治療薬を処方するよう伝えることですみやかな対処が可能と考えられた。

## Report (1 results)

---

2009 Annual Research Report

## Research Products (1 results)

---

All 2010

All Presentation (1 results)

[Presentation] 抗がん剤による吃逆の要因の調査

2010 ▾

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-21928009/>

Published: 2009-03-31 Modified: 2020-05-15